

## [016]教育経営学研究紀要目次等

<https://hdl.handle.net/2324/1398557>

---

出版情報：教育経営学研究紀要. 16, 2013-09-30. 九州大学大学院人間環境学府(教育学部門)教育経営学  
研究室/教育法制論研究室

バージョン：

権利関係：



あとがき

ここに教育経営研究室・教育法制研究室による共同作業としての研究室紀要第16号が完成いたしましたので、謹んで皆様にお届け致します。例年そうなのですが、本号も難産の末、とくに編集委員（金子研太・畑中大路）両氏の多大なる尽力のお蔭でなんとか無事刊行することができました。

本号は研究室OBでもあり社会人大学院1期生の増田健太郎本学教授からの特別寄稿文、査読を経た研究論文、研究ノート、そして大学院の授業成果としての特集論文という構成となっています。また卒業論文、修士論文、そして博士学位請求論文の梗概と研究室名簿も掲載しております。ご覧のように、メンバーは少しずつ新陳代謝しておりますが、この数年間、研究室の屋台骨を支えてくれたスタッフ達は最高学年に達しています。この紀要の発行もそうですが、学校管理職マネジメント短期研修や九州教育経営学会といった研究室の中核をなす事業も彼らの存在なしには運営できない状態です。それに加え、今年は私自身が科研A、科研B×2、科研c、国際科研、受託研究×2、学内学際研究と8つのプロジェクトを抱えており、とりわけ教員研修モデル開発プログラム事業と今回の特集となった北九州市学校適正規模の受託研究については事務仕事を超えて研究面でも全面的に切り盛りしてもらっています。その他にも日本教育経営学会実践推進委員会や韓国・公州大学校との交流事業、ED.Dプログラムとしての『特別活動エッセンス』の出版、新進気鋭の講師陣を招いての集中講義、福岡県教育センターとの連携事業などの行事が目白押しで、このメンバー構成だから何とかこなせている感じです。八尾坂教授・元兼の体制となって今春ちょうど10年が経ち、組織としては最も充実している「旬」なこの時期にこそ次の世代の育成を考えなければならず、それが研究室の目下の課題でもあります。

今月半ばには再び研究室で42.195kmのリレーマラソンに挑みます。皆でたすきを繋いでいくこのリレーマラソンのように、研究室の有形無形のノウハウやナレッジを繋いでいき次世代への知の伝承ができればと願っております。なお、学位が足の裏についた飯粒であるとの喩えにちなんだ「飯粒の会」も始めました。共同研究やプロジェクトばかりでなく、個人研究もまた組織的に互いに切磋琢磨する環境整備と支援を行い、今月も研究室出身の博士が誕生しますので、後進もこれに続いていけるよう叱咤激励していきます。

最後になりましたが、本研究室紀要の論考をご高覧いただき、ぜひ忌憚のないご意見を賜りますれば誠に幸甚に存じます。まだまだ未熟な研究の若き学徒にぜひともご教示をお願いします。ご自愛の上、爽やかな秋をお迎えくださいますよう心より祈念いたします。

2013年重陽の節句に  
元兼 正浩